令和8年度 施策評価シート（令和7年度評価）

令和8年9月30日

10010401

まちづくりの目標	第4章 快適で持続可能なまちづくり（都市・環境部門）	評価責任者	市民生活部長
基本事項 施策名	第1節 環境にやさしいまちづくり	所管部署名	市民生活部環境課
施策の展開	1 (1)地球環境の保全 2 (2)資源循環型社会の推進 3 (3)自然環境の保全 4 (4)快適な生活環境の保全 5 (5)環境配慮意識の醸成	関連部署名	都市計画部開発建築課
関連する個別計画・方針等	吉川市環境保全指針 吉川市エネルギービジョン 第4次一般廃棄物処理基本計画 第5次吉川市環境配慮率先実行計画 環境行動計画	施策の目的	・市民や事業者と共に脱炭素社会の実現など環境問題に取り組む社会をめざします。 ・持続可能な資源循環型社会の構築をめざします。 ・生物多様性の理解など、人と自然が共生する社会をめざします。 ・公害問題のない、安心して暮らせる生活環境をめざします。 ・より良い環境、より良い未来を創っていこうとする環境配慮意識の醸成をめざします。

施策成果指標

指標名	単位	設定時の値（年度）	実績値（年度）	目標値（年度）	達成率	最終目標値（年度）
吉川市環境配慮率先実行計画における温室効果ガス総排出量	t-CO2	5,011	3,561	4,723	132.6	4,674
		R1	R7	R7	R7	R8
1人1日当たりのごみ排出量	g	823	817	795	97.3	790
		R2	R7	R7	R7	R8

施策の評価

評価方法		評価の理由・説明	評価点
評価軸 ①施策の進捗状況	☐ 順調 ☑ おおむね順調 ☐ やや順調でない ☐ 順調でない	1人1日当たりのごみ排出量は、集団資源回収などの取組を進めたことから、家庭系ごみは減少したが、事業系ごみが増加傾向にあるため、目標を達成できなかった。 温室効果ガス総排出量は、公共施設へ再生可能エネルギーの導入を推進したことから、目標を達成した。	3
評価軸 ②市民ニーズの反映度	☑ 反映できた ☐ どちらかといえば反映できた ☐ どちらかといえば反映できなかった ☐ 反映できなかった	環境審議会、廃棄物減量等推進審議会や環境学習等の機会を通じて、市民意見を把握し、取組に反映できている。	4
評価軸 ③施策に対する事務事業の構成	☑ 妥当であった ☐ どちらかといえば妥当であった ☐ どちらかといえば妥当でなかった ☐ 妥当でなかった	本市の環境保全に関する指針となる吉川市環境保全指針に掲げる5つの行動方針に基づく事務事業で構成されており、妥当である。 ※構成する事務事業については裏面に記載	4

施策に関する現状と課題	総合評価
1人1日当たりのごみ排出量は、家庭系ごみはコロナ禍を除き減少傾向が続いている。一方で事業系ごみは増加傾向であり、今後の動向を注視する必要がある。また、温室効果ガス総排出量については、公共施設への再生可能エネルギー導入を推進したことから、目標を達成することができた。	A：施策の目的が達成されている

今後の展開

ごみの減量については、引き続き、市民のごみ減量への意識醸成をはかるため、ごみの分別や排出方法の周知啓発に努めるとともに、事業者も含めて再利用や再資源化などの周知啓発に努めていく。また、温室効果ガス排出量の削減を一層進めるため、公共施設への再生可能エネルギー導入を進めていく。

10010401

構成する事務事業

	事務事業番号	事務事業名	成果指標				事業の方向性（今後の方針）
			成果指標名	単位	R7目標値	R7実績値	
1	01000873	ゼロカーボン推進事業	住宅用太陽光発電設備等補助金交付決定件数	件	42	41	現状のまま継続
2	01000872	環境保全推進事業	環境に配慮した生活を実践している人の割合	%	100	100	現状のまま継続
3	01000925	省エネ家電買換促進事業	省エネ家電買換促進事業費補助金交付決定件数	件	400	394	終了・完了
4	01000191	一般廃棄物広域処理事業	生活系可燃ごみの搬入量	t	12,672.52	12,251.6	現状のまま継続
5	01000192	ごみ資源化推進事業	集団資源回収実施団体数	団体	64	61	現状のまま継続
6	01000195	し尿処理推進事業	生し尿収集量	kl	620.69	643.97	現状のまま継続
7	01000196	環境センター管理運営事業	破砕機不稼働日数	日	0	0	現状のまま継続
8	01000197	不燃ごみ収集・処理事業	かん、びんの収集取り残し発生件数	件	0	0	現状のまま継続
9	01000571	粗大ごみ収集・処理事業	粗大ごみ収集量	kg	800,000	616,120	現状のまま継続
10	01000572	不燃ごみ資源化事業	資源化率	%	50	44	現状のまま継続
11	01000573	有害・処理困難物処分事業	有害物、処理困難物処理量	kg	50,000	50,190	現状のまま継続
12	01000574	一般廃棄物最終処分場維持管理事業	埋立て容量	立方メートル	277	251	現状のまま継続
13	01000891	清掃一般事業	ごみの適正排出に係る広報回数	回	4	8	現状のまま継続
14	01000892	ごみ減量化推進事業	生ごみ処理容器等購入補助台数	台	35	30	現状のまま継続
15	01000893	一般廃棄物収集運搬・処理事業	生活系可燃ごみ収集量	t	12,052.34	11,737.7	現状のまま継続
16	99000042	建設リサイクル法に関する事務	工事箇所確認件数	箇所	5	11	現状のまま継続
17	01000186	公害対策事業	典型7公害改善率	%	95	100	現状のまま継続
18	01000187	測定分析事業	環境基準等達成率	%	100	98	現状のまま継続
19	01000867	生活環境向上事業	側溝清掃実施回数	回	10	8	現状のまま継続
20	99000033	環境保全協定事業	環境保全協定 新規締結・更新事業者数	事業者	1	1	現状のまま継続

令和8年度 施策評価シート（令和7年度評価）

令和8年9月30日

10010402

まちづくりの目標	第4章	快適で持続可能なまちづくり（都市・環境部門）	評価責任者	都市建設部長	
基本事項	施策名	第2節 健全な水環境の保全	所管部署名	都市建設部河川下水道課	
	施策の展開	1 (1)水環境保全の推進	関連部署名	市民生活部環境課	
		2 (2)下水道事業の管理運営			
		3 (3)浄化槽の適正管理の推進			
		4 (4)農業集落排水事業の管理運営			
			施策の目的	・河川や排水路等の水質を改善し、良好な水環境をめざします。	
	関連する個別計画・方針等	吉川市生活排水処理基本計画			
		吉川市下水道事業経営戦略			
		吉川市農業集落排水事業経営戦略			

施策成果指標	指標名	単位	設定時の値（年度）	実績値（年度）	目標値（年度）	達成率	最終目標値（年度）
	公共下水道水洗化率	%	96.5	97.3	96.5	100.8	96.6
			R2	R7	R7	R7	R8
	浄化槽法第11条検査受検率	%	16.6	－	27	－	30
			R2	R7	R7	R7	R8

施策の評価	評価方法		評価の理由・説明	評価点
	評価軸 ①施策の進捗状況	□ 順調 ☑ おおむね順調 □ やや順調でない □ 順調でない	「水洗化率」については、目標値を達成することができた。 「浄化槽法第11条検査受検率」については、基準日時点で、実績値が公表されておらず評価することができない。	3
	評価軸 ②市民ニーズの反映度	□ 反映できた ☑ どちらかといえば反映できた □ どちらかといえば反映できなかった □ 反映できなかった	「水洗化率」及び「浄化槽法第11条検査受検率」が向上することにより、生活排水が適切に処理され、水質の保全につながるため、市民ニーズは反映できた。	3
	評価軸 ③施策に対する事務事業の構成	☑ 妥当であった □ どちらかといえば妥当であった □ どちらかといえば妥当でなかった □ 妥当でなかった	河川や排水路の水質向上のためには、公共下水道や合併処理浄化槽への転換は不可欠であるため、その維持管理に関する事務事業は適切であると考える。 ※構成する事務事業については裏面に記載	4

施策に関する現状と課題	総合評価
1. 市街化区域においては、公共下水道への接続、市街化調整区域においては、合併浄化槽への転換や農業集落排水事業の推進により、良好な水環境を創出している。 2. 下水道施設の老朽化が進むことにより、維持管理経費が増大することが見込まれる。 3. 浄化槽法第11条に基づく法定検査受検率は、緩やかに上昇しているものの、県平均を下回っている。 4. 使用料負担の大きい大口使用者の排水量が増加したことにより使用料収入は増加したが、下水道使用者は減少しており、今後の事業運営に課題がある。	A：施策の目的が達成されている

今後の展開
1. 公共下水道への接続依頼や合併処理浄化槽の補助制度の周知を行い、公共用水質の向上を図る。 2. 令和7年度に改定した下水道事業経営戦略に基づき、料金改定も含めた事業の見直しを図る。 3. 浄化槽法第11条に基づく法定検査率について、引き続き広報等での周知を行い受検率向上に努める。 4. 令和7年度に改定した農業集落排水事業経営戦略に基づき、最適な汚水処理方法への転換に向け、地域の方々や関係機関と調整を行いながら見直しを図る。

10010402

構成する事務事業

	事務事業番号	事務事業名	成果指標				事業の方向性（今後の方針）
			成果指標名	単位	R7目標値	R7実績値	
1	04100001	公共下水道事業経営事業	資金不足比率	%	0	0	現状のまま継続
2	04100002	汚水処理事業	緊急管渠内洗浄	回	3	6	現状のまま継続
3	04100004	汚水処理施設建設改良事業	下水道総延長	m	206,538	203,534	現状のまま継続
4	01000188	浄化槽設置補助事業	合併処理浄化槽転換基数	基	30	4	現状のまま継続
5	01000800	浄化槽維持管理事業	浄化槽法第11条検査受検率	%	25		現状のまま継続
6	06100001	農業集落排水事業経営事業	資金不足比率	%	0	0	改善の上で継続
7	06100002	農業集落排水施設維持管理事業	維持管理業務委託数	件	2	2	現状のまま継続
8	06100003	農業集落排水施設整備事業	事業認可区域	ha	21.2	21.2	現状のまま継続

令和8年度 施策評価シート（令和7年度評価）

令和8年9月30日

10010403

まちづくりの目標	第4章	快適で持続可能なまちづくり（都市・環境部門）	評価責任者	都市計画部長	
基本事項	施策名	第3節 調和のとれた都市づくりの推進	所管部署名	都市計画部都市計画課	
	施策の展開	1 (1)計画的な土地利用の推進	関連部署名	都市計画部吉川美南駅周辺地域整備課	
		2 (2)吉川美南駅周辺地域の整備		都市計画部開発建築課	
		3 (3)良好な住環境の維持・向上			
		4 (4)魅力的な地域景観の形成			
		5 (5)公的住宅等の供給促進			
			施策の目的	・長期的な視点に立ち、地域の特徴を活かした秩序ある土地利用をめざします。 ・良好な住環境を有し、多様な都市機能が充実した市街地の形成をめざします。	
	関連する個別計画・方針等	吉川市都市計画マスタープラン～吉川市の都市計画に関する基本的な方針～			
		越谷都市計画事業吉川美南駅東口周辺地区土地区画整理事業事業計画（第4回変更）			
		吉川市空家等対策計画			

施策成果指標	指標名	単位	設定時の値（年度）	実績値（年度）	目標値（年度）	達成率	最終目標値（年度）
	吉川美南駅東口周辺地区土地区画整理事業面積に対する使用収益開始面積の割合	%	0	58	58	100	100
			R3	R7	R7	R7	R8
	計画的な土地利用への取組に対する満足度（市民意識調査）	%	61.7	59.8	59	101.4	65
			R3	R7	R7	R7	R8

施策の評価	評価方法		評価の理由・説明	評価点
	評価軸 ①施策の進捗状況	☐ 順調 ☑ おおむね順調 ☐ やや順調でない ☐ 順調でない	・吉川美南駅東口周辺地区では、商業業務ゾーン等、一部使用収益を開始し、まちなみの形成が進んでいる。 ・吉川中央地区は、清算業務が終了し、事業が完了した。	3
	評価軸 ②市民ニーズの反映度	☐ 反映できた ☑ どちらかといえば反映できた ☐ どちらかといえば反映できなかった ☐ 反映できなかった	・吉川美南駅東口周辺地区は、審議会や地権者の意見を伺いながら事業が進んでいる。 ・吉川中央地区は、清算業務が終了し、事業が完了した。	3
	評価軸 ③施策に対する事務事業の構成	☐ 妥当であった ☑ どちらかといえば妥当であった ☐ どちらかといえば妥当でなかった ☐ 妥当でなかった	・都市計画、土地区画整理事業、開発許可などの事務事業は、「調和のとれたまちづくりの推進」という目標を達成するために妥当なものとなっている。 ※構成する事務事業については裏面に記載	3

施策に関する現状と課題	総合評価
・人口増加に伴い、土地区画整理事業により良好な市街地整備を進めてきたが、今後は人口減少や少子高齢化、自然災害への対応などの課題への対応も含めた、長期的な視点が必要である。 ・吉川中央地区（組合施行）は、事業の完成により令和6年12月25日に組合の解散が認可され、令和7年9月30日に清算業務が終了し、土地区画整理事業が完了した。 ・吉川美南駅東口周辺地区（市施行）は、商業業務ゾーン及び住宅ゾーンの一部使用収益を開始した。駅前に商業施設が開業するなど、まちなみの形成が進んでいる。今後も、地権者の理解を得ながら、計画的に事業を推進していく必要がある。	B：施策の目的が概ね達成されている

今後の展開
・都市計画マスタープラン等の上位計画を踏まえ、引き続き、長期的な視点に立ち、地域の特徴を生かした秩序ある土地利用をめざして着実に事業を推進していく。 ・吉川美南駅東口周辺地区（市施行）は、市の新たな玄関口にふさわしい土地利用を図るため、「笑顔と緑あふれるみんなの庭」をコンセプトに、地権者等の協力を得ながら事業を推進していく。

10010403

構成する事務事業

	事務事業番号	事務事業名	成果指標				事業の方向性（今後の方針）
			成果指標名	単位	R7目標値	R7実績値	
1	01000250	都市計画決定・変更事業	都市計画決定・変更の告示	件	2	1	現状のまま継続
2	01000254	吉川中央土地区画整理促進事業	事業の進捗率（事業費ベース）	%	100	100	終了・完了
3	01000826	都市計画情報提供事業	都市計画に関するコンテンツの閲覧数	件	2,500	2,087	他の事業に統合
4	01000827	都市づくり推進事業	まちづくりニュースの発行回数	回	1	0	他の事業に統合
5	09000002	土地区画整理事業特別会計運営事業	予算執行額	千円	2,887,461	2,695,330	現状のまま継続
6	09000003	土地区画整理推進事業	土地区画整理法等に基づく事業実施手続き	%	50	50	現状のまま継続
7	01000235	建築確認等審査事務事業	完了検査の受検率：増築工事（限定特定行政庁が所掌する建築物）	%	100	75	現状のまま継続
8	01000237	開発許可等審査事務事業	工事完了検査合格率	%	100	100	現状のまま継続
9	01000820	空家等対策事業	空家の管理改善率	%	25	22	現状のまま継続
10	99000045	地区計画の審査事務	地区計画受理率	%	100	100	現状のまま継続
11	99000046	宅地開発事前協議事務	宅地開発事前協議締結率	%	97	90	現状のまま継続
12	99000047	宅地開発事前相談事務	宅地開発に関する事前相談回答率	%	100	100	現状のまま継続
13	01000516	屋外広告物審査事務事業	屋外広告物許可件数	件	30	27	現状のまま継続
14	99000043	景観に関する事務	行為の届出等の受理率	%	100	100	現状のまま継続
15	99000044	公的住宅に関する事務	県営住宅入居者申込書の周知率	%	100	100	現状のまま継続

令和8年度 施策評価シート（令和7年度評価）

令和8年9月30日

10010404

まちづくりの目標	第4章	快適で持続可能なまちづくり（都市・環境部門）	評価責任者	都市計画部長
基本事項 施策名	第4節	安らぎとうるおいのあるみどりと公園の整備	所管部署名	都市計画部都市計画課
施策の展開	1	(1)公園の適切な維持管理	関連部署名	都市建設部河川下水道課
	2	(2)公園の整備と利活用		
	3	(3)緑化の推進とみどりの保全		
	4	(4)水辺空間の充実		
関連する個別計画・方針等	吉川市都市計画マスタープラン～吉川市の都市計画に関する基本的な方針～		施策の目的	・水と緑に囲まれた豊かな生活環境の実現をめざします。 ・誰もが楽しみ、憩える公園の整備・管理をめざします。

施策成果指標

指標名	単位	設定時の値（年度）	実績値（年度）	目標値（年度）	達成率	最終目標値（年度）
住み心地をよいと感じた理由のうち、公園の整備がよいと回答した割合（市民意識調査）	%	65.8	65.7	65.8	99.8	70
		R3	R7	R7	R7	R8

施策の評価

評価方法		評価の理由・説明	評価点
評価軸 ①施策の進捗状況	☐ 順調 ☑ おおむね順調 ☐ やや順調でない ☐ 順調でない	・公園の整備については、老朽化した遊具や施設の見直しによる再整備を進めている。 ・三輪野江地区に初となる公園「みわのえこどもの杜」を整備した。	3
評価軸 ②市民ニーズの反映度	☐ 反映できた ☑ どちらかといえば反映できた ☐ どちらかといえば反映できなかった ☐ 反映できなかった	公園の施設・除草等について市民から多くの要望があるが、全てに対応することはできない状況である。 速やかに現地を確認し、順次改善等を図っている。	3
評価軸 ③施策に対する事務事業の構成	☑ 妥当であった ☐ どちらかといえば妥当であった ☐ どちらかといえば妥当でなかった ☐ 妥当でなかった	水と緑に囲まれた豊かな生活環境を実現するためには、公園の整備や維持管理、緑化の推進が必要であり、設定した事務事業は妥当なものである。 ※構成する事務事業については裏面に記載	4

施策に関する現状と課題	総合評価
・都市公園の多くは土地区画整理事業により整備され、20年以上経過した施設が多く経年劣化が進んでいることから、維持管理に係る財源の確保が課題となっている。 ・令和6年4月に「吉川市公園等維持管理協定に関する要綱」を策定し、各団体の状況を踏まえた活動が継続できるように、見直しを行った。 ・美南中央公園に、年齢、性別、ハンディキャップの有無に関わらずみんなで遊べるインクルーシブ遊具エリアを整備した。 ・令和8年3月20日に三輪野江地区に初となる公園「みわのえこどもの杜」を整備した。	A：施策の目的が達成されている

今後の展開

・安らぎとうるおいのあるみどりと公園の整備を進めるため、市民との協働により公園の適切な維持管理に努めるとともに、公園の整備、利活用、及び緑化の推進とみどりの保全に取り組んでいく。

10010404

構成する事務事業

	事務事業番号	事務事業名	成果指標				事業の方向性（今後の方針）
			成果指標名	単位	R7目標値	R7実績値	
1	01000256	公園維持管理事業	要望に対する対応率	%	100	100	現状のまま継続
2	01000257	緑化推進事業	緑化奉仕活動達成度	%	100	103	現状のまま継続
3	01000411	公園整備事業	整備進捗率	%	100	100	現状のまま継続

令和8年度 施策評価シート（令和7年度評価）

令和8年9月30日

10010405

まちづくりの目標	第4章	快適で持続可能なまちづくり（都市・環境部門）	評価責任者	都市建設部長	
基本事項	施策名	第5節 暮らしを支える上水道の充実	所管部署名	都市建設部水道課	
	施策の展開	1 (1)水道施設の整備	関連部署名		
		2 (2)水の安定供給			
		3 (3)水質管理の充実			
			施策の目的	安心・安全でおいしい水の安定した供給をめざします。	
	関連する個別計画・方針等	吉川市水道ビジョン（経営戦略）			
		吉川市水道事業経営健全化計画			
		吉川市水道事業水道施設更新計画			

施策成果指標

指標名	単位	設定時の値（年度）	実績値（年度）	目標値（年度）	達成率	最終目標値（年度）
石綿管布設替えの進捗率	%	77.8	82.6	86.2	95.8	88
		R2	R7	R7	R7	R8
水の安定供給の取組に対する市民満足度（市民意識調査）	%	87.8	86.8	88.5	98.1	90
		R3	R7	R7	R7	R8

施策の評価

評価方法		評価の理由・説明	評価点
評価軸 ①施策の進捗状況	☐ 順調 ☑ おおむね順調 ☐ やや順調でない ☐ 順調でない	・石綿管の布設替えは、地域交通等に配慮しながら施工するため多くの時間を要する。令和14年度の完了の計画で実施している。 ・市民満足度に関しては、常に目標値に近い水準で推移しているが、到達には至っていない。	3
評価軸 ②市民ニーズの反映度	☐ 反映できた ☑ どちらかといえば反映できた ☐ どちらかといえば反映できなかった ☐ 反映できなかった	「安全な水の安定供給への取り組みに対する満足度」は、市民意識調査において継続的に把握している。	3
評価軸 ③施策に対する事務事業の構成	☑ 妥当であった ☐ どちらかといえば妥当であった ☐ どちらかといえば妥当でなかった ☐ 妥当でなかった	安心・安全な水を安定供給していくためには、効率的な水道事業運営や水道施設維持管理などを行っていく必要があることから本施策を構成する事務事業の構成は妥当である。 ※構成する事務事業については裏面に記載	4

施策に関する現状と課題	総合評価
各事務事業の効率化に向け、継続的な改善に取り組んでいるものの、ライフスタイルの変化や節水機器の普及などにより、有収水量の減少に伴い、使用料収入に影響を及ぼしている。また、安心・安全な水道水を持続的に供給していくためには、老朽化した施設の更新が必要であるが、更新には多額の費用と時間を要する。このようなことから、引き続き料金体系の見直しを図り、水道事業運営を持続可能なものとしていく必要がある。	A：施策の目的が達成されている

今後の展開

持続可能な水道事業運営のため、令和7年度に第2次水道ビジョン（経営戦略）を策定。
これに基づき、水道料金の改定や計画的な施設更新を行っていく。
また、事務事業の効率化と市民満足度の向上を目指し、事業の改善には継続して取り組んでいく。

10010405

構成する事務事業

	事務事業番号	事務事業名	成果指標				事業の方向性（今後の方針）
			成果指標名	単位	R7目標値	R7実績値	
1	04200002	庁舎維持管理事業	事故発生件数	件	0	1	現状のまま継続
2	04200003	給配水施設建設改良事業	石綿管割合	%	5.6	6	現状のまま継続
3	04200001	水道事業経営事業	総収支比率	%	112.1	118.8	現状のまま継続
4	04200004	給配水施設維持管理事業	有収率	%	93.9	93.6	改善の上で継続

令和8年度 施策評価シート（令和7年度評価）

令和8年9月30日

10010406

まちづくりの目標	第4章	快適で持続可能なまちづくり（都市・環境部門）	評価責任者	都市計画部長	
基本事項	施策名	第6節 災害に強い都市の整備	所管部署名	都市計画部開発建築課	
	施策の展開	1 (1)建築物等の安全性の確保	関連部署名	総務部財政課	
		2 (2)公共インフラ設備の耐震化の推進		都市建設部河川下水道課	
		3 (3)河川の整備			
		4 (4)雨水処理施設の整備			
		5 (5)雨水処理施設管理の充実			
	関連する個別計画・方針等	吉川市都市計画マスタープラン～吉川市の都市計画に関する基本的な方針～	施策の目的	・災害発生時に日常生活が続けられるまちをめざします。 ・大雨による河川の氾濫や浸水被害が発生しないまちをめざします。	
		吉川市国土強靭化地域計画			
		吉川市建築物耐震改修促進計画			
		吉川市総合治水計画			
		中川流域関連吉川公共下水道事業計画			

施策成果指標	指標名	単位	設定時の値（年度）	実績値（年度）	目標値（年度）	達成率	最終目標値（年度）
	住宅の耐震化率	%	91	93	95	97.9	95
			H30	R7	R7	R7	R5
	河川整備の取組に対する市民満足度（市民意識調査）	%	52.4	61.9	59	104.9	60
			R3	R7	R7	R7	R8

施策の評価	評価方法		評価の理由・説明	評価点
	評価軸 ①施策の進捗状況	☐ 順調 ☑ おおむね順調 ☐ やや順調でない ☐ 順調でない	・危険性の高い旧耐震住宅は、築45年を経過し、建替や解体も進むが、住宅土地統計調査の結果を受け、最終目標年度を5年間延長するものとした。 ・河川整備の取組では、河川改修工事を進めており、治水安全度の向上を図っている。	3
	評価軸 ②市民ニーズの反映度	☐ 反映できた ☑ どちらかといえば反映できた ☐ どちらかといえば反映できなかった ☐ 反映できなかった	・耐震改修には多額の費用を要するため、補助制度を設け、費用負担の軽減を図っている。 ・河川整備の取組では、河川改修工事の他、各施設の適切な維持管理により、故障リスクの低減を図り、浸水被害の軽減に努めている。	3
	評価軸 ③施策に対する事務事業の構成	☐ 妥当であった ☑ どちらかといえば妥当であった ☐ どちらかといえば妥当でなかった ☐ 妥当でなかった	施策の目的を達成するために必要となる災害対策に係る事務事業により構成しており、妥当である。 ※構成する事務事業については裏面に記載	3

施策に関する現状と課題	総合評価
・旧耐震基準の住宅の居住者は、核家族化により、高齢者世帯が多く、次の世代が継続して居住する見込みがないことなどから、多額の費用を要する耐震改修は進んでいない状況であるが、住宅の売却などに伴う建替や解体も進んでいることから、耐震化率は目標に近づきつつある。 ・河川整備の取組では、上第二大場川の改修工事や、各雨水ポンプ施設の適切な維持管理により、浸水被害の軽減が図られているが、今後ますます豪雨災害の激甚化、頻発化が予想されるため、更なる対策の強化が課題である。	B：施策の目的が概ね達成されている

今後の展開
・住宅の耐震化については、最終目標年度を5年間延長し、引き続き、所有者に倒壊の危険性と耐震化の必要性、また、補助制度等について周知・啓発するとともに、耐震改修に係る費用負担の軽減を図る。 ・河川整備については、市が実施している河川改修の早期完成に努めるとともに、国や県に対して河川整備の促進を要望していく。また、引き続き雨水ポンプ施設の適切な維持管理を実施して、浸水被害の軽減を図る。

10010406

構成する事務事業

	事務事業番号	事務事業名	成果指標				事業の方向性（今後の方針）
			成果指標名	単位	R7目標値	R7実績値	
1	01000383	既存建築物耐震改修促進事業	耐震改修補助金交付件数	件	3	0	現状のまま継続
2	01000244	一級河川改修促進事業	協議会の会議	回	2	2	現状のまま継続
3	01000718	河川整備事業	河川改修工事の進捗	%	89	89	現状のまま継続
4	01000245	河川等除草業務	除草実施面積	㎡	48,500	44,812	現状のまま継続
5	04100005	雨水排除施設建設改良事業	ポンプ施設工事対象	箇所	8	8	現状のまま継続
6	01000246	排水施設管理事業	水路パトロール実施回数	回	37	27	現状のまま継続
7	01000479	ポンプ施設管理事業	ポンプ場、大型エンジンポンプ車、可搬式エンジンポンプの数	基	16	16	現状のまま継続
8	04100003	雨水排除事業	雨水排水施設点検業務	施設	10	10	現状のまま継続

令和8年度 施策評価シート（令和7年度評価）

令和8年9月30日

10010407

まちづくりの目標	第4章 快適で持続可能なまちづくり（都市・環境部門）	評価責任者	都市建設部長
基本事項 施策名	第7節 快適な道路環境の充実	所管部署名	都市建設部道路課
施策の展開	1 (1)幹線道路の整備 2 (2)生活道路の整備 3 (3)道路の維持管理の充実	関連部署名	
関連する個別計画・方針等	吉川市都市計画マスタープラン～吉川市の都市計画に関する基本的な方針～ 吉川市橋梁長寿命化修繕計画 吉川市道路舗装修繕計画	施策の目的	誰もが安全で快適に通行できる道路環境をめざします。

施策成果指標	指標名	単位	設定時の値（年度）	実績値（年度）	目標値（年度）	達成率	最終目標値（年度）
	道路整備の取組に対する市民満足度（市民意識調査）	%	51.5 R3	54.5 R7	59 R7	92.4 R7	60 R8

施策の評価	評価方法		評価の理由・説明	評価点
	評価軸 ①施策の進捗状況	☐ 順調 ☑ おおむね順調 ☐ やや順調でない ☐ 順調でない	・令和7年度は、吉川市道路舗装修繕計画に順じ、市内の幹線道路等の修繕を行ったほか、令和6年度より取組んでいる旭・三輪野江地区の生活道路整備では、要望箇所の整備を計画どおり実施しており、概ね順調に進めることができた。	3
	評価軸 ②市民ニーズの反映度	☐ 反映できた ☑ どちらかといえば反映できた ☐ どちらかといえば反映できなかった ☐ 反映できなかった	・道路や街路樹に関する市民からの要望苦情は多く、全てに対応することが難しいものの、要望苦情に対する処理率は、令和7年度において72%となっていることから、概ね反映することができた。	3
	評価軸 ③施策に対する事務事業の構成	☑ 妥当であった ☐ どちらかといえば妥当であった ☐ どちらかといえば妥当でなかった ☐ 妥当でなかった	・快適な道路環境の充実には、交通利便性をより向上させるための幹線道路の整備や安全に利用できる道路の維持管理、また街路樹の景観形成等が重要であり、設定した事務事業は妥当なものである。 ※構成する事務事業については裏面に記載	4

施策に関する現状と課題	総合評価
幹線道路においては、都市計画道路越谷総合公園川藤線の予備設計を行い、整備を促進させたほか、生活道路においては、道路舗装修繕計画に位置付けた道路修繕や旭・三輪野江地区における地域要望に沿った生活道路の整備などを実施した。また、兵庫橋においては護岸工事が完了し、橋りょうの架替工事が完了した。他方、道路や街路樹に関する要望苦情は令和7年度において750件寄せられており、苦情要望に対し迅速な対応に努めているものの全ての要望に応じられていない状況にある。 経年劣化等による道路舗装の損傷箇所は多く、また街路樹においては、雑草の繁茂や樹木の大木化等により管理不全な状態になりつつあるため、道路を安全に利用できるよう適切な維持管理を行っていく必要がある。	A：施策の目的が達成されている

今後の展開
誰もが安全で快適に道路を通行できるよう幹線道路においては、都市計画道路越谷総合公園川藤線の整備を促進し、生活道路においては、道路舗装修繕計画に位置付けた路線や、旭・三輪野江地区の要望箇所を整備していく。吉川駅北口駅前広場改修工事においては、令和8年度に繰越しした工事分を含め、完成に向けて着実な施工に努める。 また、街路樹においては、サクラなどのバラ科の樹木に加害する特定外来生物のクビアカツヤカミキリの防除対策のほか、雑草の繁茂や大木化等に対して増加傾向にある財政負担などの課題を改善するため、「（仮称）街路樹マネジメント方針」を策定し、街路樹の効果的かつ効率的な維持管理や整備に努める。

10010407

構成する事務事業

	事務事業番号	事務事業名	成果指標				事業の方向性（今後の方針）
			成果指標名	単位	R7目標値	R7実績値	
1	01000259	都市計画街路整備事業	都市計画道路整備率	%	100	100	現状のまま継続
2	01000370	越谷総合公園川藤線街路整備事業	都市計画道路整備率	%	20	20	他の事業に統合
3	01000809	吉川駅北口駅前広場再整備事業	交通広場改良工事の進捗状況	%	55	30	改善の上で継続
4	01000239	まちづくり整備基準条例道路後退用地取得事業	採納申請件数①	件	41	39	現状のまま継続
5	01000242	道路改良事業	道路改良工事延長	m	68	0	現状のまま継続
6	01000234	道路台帳整備事業	市道延長	%	38.54	38.6	現状のまま継続
7	01000240	道路維持補修事業	道路補修要望等処理率	%	80	85	現状のまま継続
8	01000382	橋りょう長寿命化事業	橋梁長寿命化実施率	%	16	16	現状のまま継続
9	01000772	橋りょう架替事業	橋架替工事の進捗状況	%	100	100	廃止・休止

令和8年度 施策評価シート（令和7年度評価）

令和8年9月30日

10010408

まちづくりの目標		第4章	快適で持続可能なまちづくり（都市・環境部門）	評価責任者	都市計画部長
基本事項	施策名	第8節	持続可能な公共交通の充実	所管部署名	都市計画部都市計画課
	施策の展開	1	(1)市内公共交通の充実	関連部署名	
		2	(2)都市間交通の充実		
		3	(3)交通利便性の向上		
				施策の目的	・誰もが公共交通を利用し、行きたいときに行きたい場所へ快適に移動できる環境づくりをめざします。 ・持続可能な公共交通をめざします。
	関連する個別計画・方針等	吉川市都市計画マスタープラン～吉川市の都市計画に関する基本的な方針～			

施策成果指標	指標名	単位	設定時の値（年度）	実績値（年度）	目標値（年度）	達成率	最終目標値（年度）
	公共交通の取組に対する市民満足度（市民意識調査）	%	45.8	45.3	49	92.4	50
			R3	R7	R7	R7	R8

施策の評価	評価方法		評価の理由・説明	評価点
	評価軸 ①施策の進捗状況	☐ 順調 ☑ おおむね順調 ☐ やや順調でない ☐ 順調でない	公共交通事業者をはじめ、障がい者団体などの関係団体、市民、行政機関などで構成する地域公共交通協議会で意見を伺い「地域公共交通計画」を策定した。	3
	評価軸 ②市民ニーズの反映度	☐ 反映できた ☐ どちらかといえば反映できた ☑ どちらかといえば反映できなかった ☐ 反映できなかった	市民からの要望を踏まえて、公共交通事業者への要望を行っているが、運転士不足や採算性などの課題があり、市民ニーズを反映できないことがある。	2
	評価軸 ③施策に対する事務事業の構成	☑ 妥当であった ☐ どちらかといえば妥当であった ☐ どちらかといえば妥当でなかった ☐ 妥当でなかった	路線バスの運行を基軸とした公共交通網の整備や、公共交通に関する要望活動など、施策の体系に基づいた事務事業で構成しており、妥当である。 ※構成する事務事業については裏面に記載	4

施策に関する現状と課題	総合評価
・バス路線については、地域公共交通協議会等において公共交通事業者と協議を行っているが、増便や路線の新設等については、運転士不足や利用者減少に伴う採算性の課題から実現が難しい状況である。 ・鉄道については、沿線自治体とともに要望活動を実施してきた結果、強風に伴う運休対策等の改善や利用環境の向上につながってきているが、市民からの要望の多い深夜帯における運行時間の延長は夜間メンテナンス実施等から実現は困難な状況である。	B：施策の目的が概ね達成されている

今後の展開

令和7年度に持続可能な公共交通の実現に向け、交通事業者や市民が将来像を共有し、連携するための指針となる「地域公共交通計画」を策定した。公共交通を取り巻く厳しい環境や多様化する移動ニーズを捉えると、交通事業者や行政による公共交通のみで、全ての移動を持続的に支えることは困難な状況である。

そのため、ネットワークの「幹」や「枝」となる路線バスについては、市と事業者が連携して維持・確保に努め、「葉」となるきめ細やかな移動については、地域や他の分野の移動を支える取組みとも連携した移動手段の検討もあわせて進める必要がある。今後は、「地域公共交通計画」に位置付けた施策に着実に取り組んでいく。

10010408

構成する事務事業

	事務事業番号	事務事業名	成果指標				事業の方向性（今後の方針）
			成果指標名	単位	R7目標値	R7実績値	
1	01000894	公共交通対策事業	公共交通を利用しやすいと感じている市民の割合	%	50	45.3	現状のまま継続
2	01000896	路線バス運行費補助事業	補助対象路線の利用者数	人	550,000	574,852	改善の上で継続
3	01000897	タクシー利用料助成事業	タクシー利用料助成券の利用率	%	70	59.3	現状のまま継続
4	01000895	鉄道新線対策事業	地下鉄8号線の建設促進に係る要望活動及び会議への出席率	%	100	100	現状のまま継続
5	99000002	ノンステップバス導入費補助事業	ノンステップバス導入率（年度末時点）	%	98.4	98.4	現状のまま継続